

まいばら

まんすりーれぽーど

まいばら子ども王国(10月17日)

ルッチプラザと山東公民館で「まいばら子ども王国」が開催され、およそ500人の親子が創作体験や職業体験を楽しみました。

これは、米原市子ども会育成連合会が毎年開催している「ふれあいの里フェスティバル」を、米原市合併10周年を記念して拡大したものです。子どもたちが、たくさんの人と触れ合い、さまざまな体験をすることで、心身ともに健全に成長していくことを目指して開催されました。

子どもたちは、市内の企業や団体が用意した体験ブースで、木彫りのスプーンづくりやミニ畳づくりなどの創作体験をしたほか、医師・看護師、カフェ店員、広報記者などさまざまな職業体験もしました。

また、このイベントは、ジュニアリーダー養成講習会に参加する市内の小学生12人が、チラシ作りなどの事前準備から、当日の受付、放送なども担当しました。ジュニアリーダーらは「予想よりも、たくさんの方が来てくれて嬉しかった」と、大盛況となったイベントの感想を話してくれました。

▶ 国王平尾市長の開国宣言



▲銀行員の職業体験コーナーでお札を数える練習



▲子どもたちが作成した米原の未来予想図

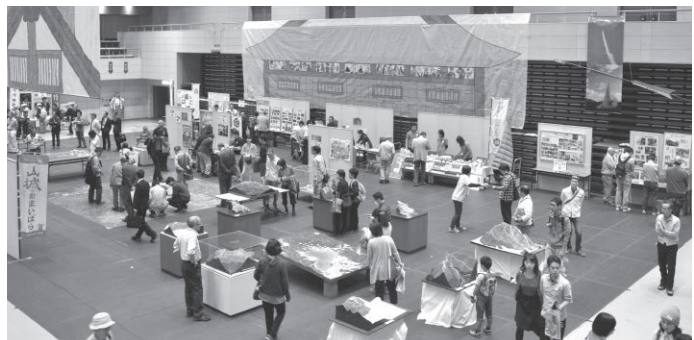
災害時における被災者等への支援活動に関する基本協定(10月15日)

市は、山室木材工業株式会社と「災害時における被災者等への支援活動に関する基本協定」を結びました。この協定は、災害発生時に市が要請した場合、山室木材工業株式会社は廃棄物の撤去や収集、運搬などを行うというものです。また、避難場所の提供や、1000食分の食料提供についても協定されました。



米原庁舎で行われた締結式で「東日本大震災を契機に何か地域貢献ができないかと取り組んできた」と話す山室木材工業株式会社代表の下村和幸さんに、平尾市長は「関連会社を含めたグループ全体で支援をいただき大変心強い。今後は市の訓練等にも参加いただき、より実効性のあるものにしていきたい」と話しました。

地域とともに!山城を舞台に! 全国山城サミット米原大会を開催(10月25日)



県立文化産業交流会館で「第22回全国山城サミット米原大会」が開催されました。これは、京極氏遺跡(上平寺城跡)と鎌刃城跡の国史跡指定10周年を記念して、山城の保存や活用を進める全国の市町村や関係団体が情報交換と交流を深めることを目的に、市と地域が協働で開催したものです。

河南小・中学生による竹のほら貝演奏で開会となったサミットでは、滋賀県立大学教授の中井均氏、城郭ライター萩原さちこさんによる講演や、シンポジウムがありました。また、サミット会場内には市内の山城を空撮した映像の放映や県内の山城の模型、全国の山城を紹介する交流ブースなどがあり、県内外から集まった歴史愛好家らおよそ500人でにぎわいました。